

### 南区介護保険認定者の原因疾病分析（概要版）

#### 1. 目的

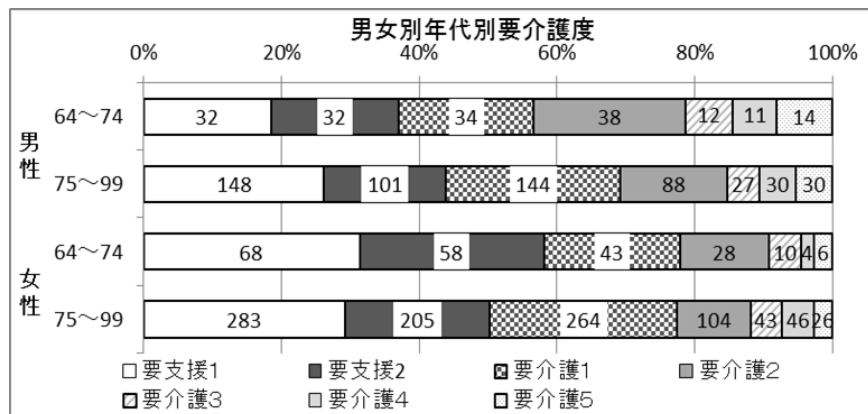
南区民の健康に関する特性を把握するために、要介護状態の原因となる疾患を明らかにする。

#### 2. 対象

平成 25 年度に南区で実施した介護保険認定審査会において新規に要支援 1 以上の認定を受けた第 1 号被保険者 1929 人。

#### 3. 要介護度、年代

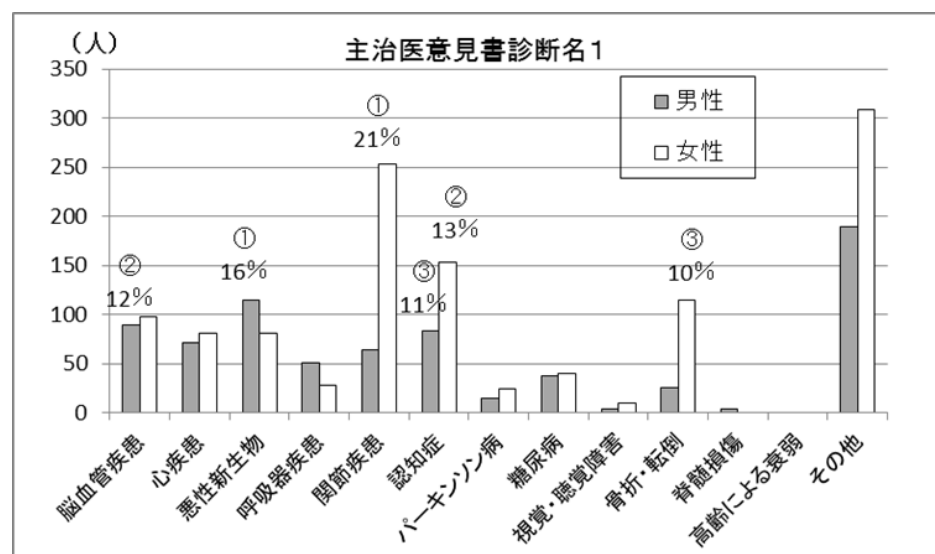
男性は 75 歳以上が 77%、女性は 82% を占める。高齢層においても要介護 2 以上の割合は増加していない。



	年齢(歳)	人数
男性	64~74	173
	75~99	568
女性	64~74	217
	75~99	971

#### 4. 原因疾病

要介護状態の直接原因として記載されている診断名 1 を国民生活基礎調査介護票の疾病分類（12 疾患群）に合わせて分類し、集計した。グラフ中の①~③は男女別上位 3 位までの疾患と認定者中に占める割合を記載した（複数回答あり）。

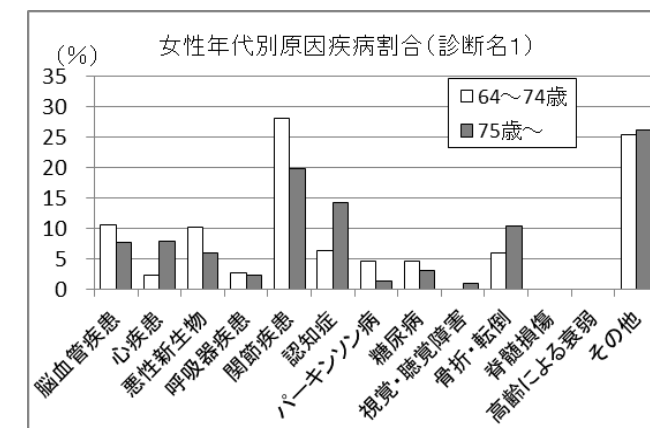
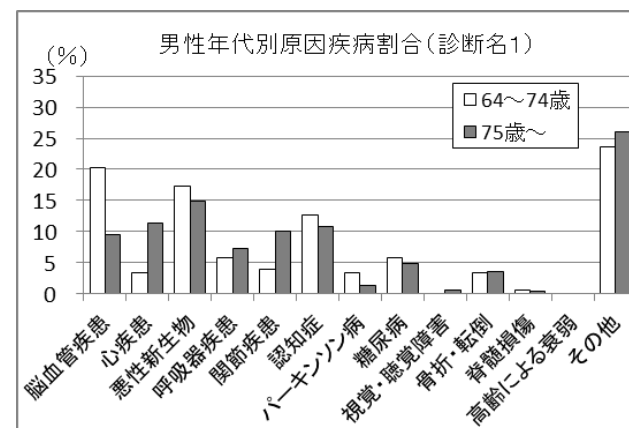


グラフのその他は 12 疾患群のいずれにも該当しない疾患名を集計し、その中で比較的多かった疾患について表に記載した（複数回答あり）。

その他	高血圧	骨粗鬆症	消化器疾患	腎疾患	精神疾患	動脈硬化性疾患
男性(人)	38	0	23	37	15	15
女性(人)	104	32	39	15	50	7

#### 5. 年代別原因疾病

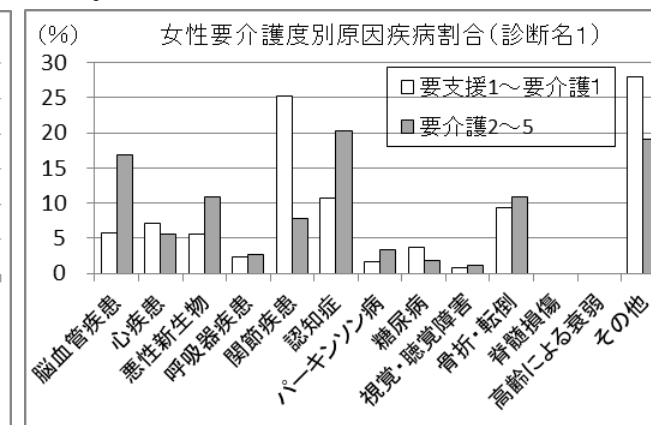
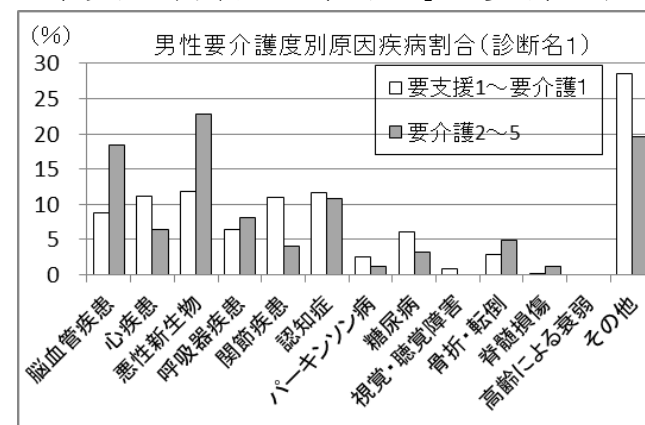
男性では 74 歳未満で脳血管疾患が最も多かったのに対し、75 歳以上では悪性新生物が最も多かった。女性では、いずれの年代も関節疾患が最も多く、特に 74 歳以下の年代では 28% と高い割合となった。



#### 6. 要介護度別原因疾病

健康寿命の指標である「日常生活動作が自立している期間の平均」の健康（自立）な状態（要支援 1～要介護 1）と不健康（要介護）な状態（要介護 2～5）に分けて比較した。

「要介護」の原因疾患の 1 位が男性は悪性新生物、女性は認知症、2 位が男女とも脳血管疾患、となり、女性の関節疾患は、「自立」に多く、25% をしめた。



#### 7. 寝たきり度、認知症自立度

寝たきり度（自立～C2）は男女とも介護度が上がるにつれて自立、J の割合が低下し、疾患別では脳血管疾患、骨折・転倒が B 以上の人の割合が高かった。

認知症自立度（自立～M）は男女とも要支援 1, 2 では自立の人の割合に差はなく、要介護 1 から段階的に自立度が低い人の割合が高くなっていった。疾患別では、男女とも認知症が認知症自立度が低く、次いで脳血管疾患が自立度の低い人が多かった。

#### 8. 今後の対策

今回の解析から要介護状態になる主な原因疾患が明らかになり、疾患によって性差や年代による差が認められた。そのため全体への対策に加えて、ハイリスクな集団を選定し、予防対策を実施することで効率的な対策となると思われる。

- ・脳血管疾患は 65 歳以前からの生活習慣病対策
- ・認知症は年代の高い群で増加するため、高齢者の介護予防対策として実施
- ・悪性新生物については、介護の要因となることへの理解と早期発見
- ・関節疾患、骨折予防については特に女性をターゲットとした対策